

●今号の主な内容

- 2面 … 令和5年度教育委員会の主要な事業
- 3面 … 中央図書館が文部科学大臣表彰を受賞/TGGで英語学習/学校給食費の公会計化/学校閉庁日のお知らせ
- 4面 … 砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業/立川市の歴史と文化財

編集・発行/立川市教育委員会
 〒190-8666 立川市泉町1156-9
 ☎042(523)2111(市役所代表)
 立川市ホームページ
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>



6.10

第51号

令和5年(2023年)
年3回発行

たっちの発行は年3回です。次号の発行は令和5年11月10日です。

たっち

立川市教育だより

令和5年度

教育委員会の主な取組を紹介します

立川市教育委員会は「まちづくりは人づくり、人づくりは未来づくり、未来づくりは学校から」の理念のもと、ネットワーク型の学校経営システムを展開し、教育の一層の充実を図っています。今号の「たっち」では、令和5年度の主な取組を紹介します。

☎教育総務課庶務係・内線2464、2465



立川市民科で 探究的な学びを実践

立川市民科の教科化から1年が過ぎました。小・中学校全校がそれぞれの地域の特性等を踏まえ、さまざまなテーマに焦点を当てた「探究的な学び」の授業を実践しています。昨年度までの取組を一層充実させ、よりよい地域づくりに参画しようとする児童・生徒の育成や地域の活性化を図ります。



幸小「地域の自慢を紹介しよう」



三中「災害ジレンマゲーム(クロスロード)」

新学校給食共同調理場の 運営開始

現在、建設工事を進めている新学校給食共同調理場は、令和5年度2学期から運営を開始します。また、配送対象校(小学校8校、中学校9校)と共同調理場方式の給食提供に向けた最終調整を行うほか、配送対象校の施設改修工事を行っています。



新学校給食共同調理場の建設工事の様子



完成のイメージパース

自閉症・情緒障害特別支援学級の開設・運営支援

市内2校目となる自閉症・情緒障害特別支援学級「にじいろ学級」を大山小に開設しました。

特別支援学級臨時指導員の配置や発達障害教育に詳しい専門家を派遣し、学級運営を支援しています。学級では発達障害等の児童の特性にあわせた指導を行うとともに、児童の能力と可能性をできる限り伸ばしていく教育活動を行っています。



令和5年度

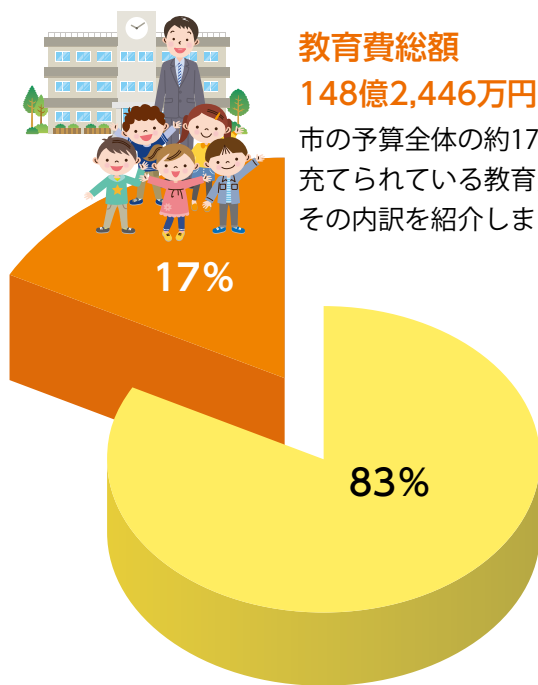
教育委員会の主要な事業

☎️ 教育総務課庶務係・内線2464、2465

教育費総額

148億2,446万円

市の予算全体の約17%が
充てられている教育費。
その内訳を紹介します。



立川市の一般会計予算額
853億9,200万円

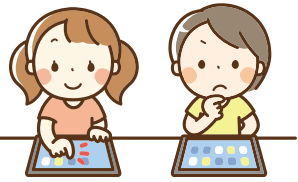
学校教育の充実

● 教育力向上の推進

立川市民科、カリキュラム・マネジメント、小学校高学年の教科担任制等のモデル校を指定し、研究成果を広く発信することにより、全校での授業改善に結び付けます。

● ICTを活用した授業の推進

タブレットP
Cを計画的・効果的に活用し、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、思考力、判断力、表現力等を育む授業を展開し、児童・生徒の学力の向上を図ります。



● 小学校教科用図書採択

小学校において、令和6年度から4年間使用する小学校教科

● 児童・生徒心理調査分析等の活用

用図書の採択を行います。
教職員の日々の観察とあわせ、心理的分析を実施し、支援が必要な児童・生徒を多面的に把握するとともに、早期に組織的な対応を行い、心のケアに取り組みます。

● コロナ禍での新しい生活様式の徹底

手洗いや咳エチケット、換気等の基本的な感染症対策等を感じ染状況に応じて継続します。コロナの影響による児童・生徒のストレスを鑑み、心身のケアを図ります。



● 児童・生徒保健衛生

感染予防のために必要なアルコールや石けん等の消耗品を購入するほか、学校の環境衛生検査用機器の普通騒音計、デジタル照度計、水質検査のためのPH計を更新します。

● 食材料費高騰への対応

令和5年度1学期の学校給食について、物価上昇に伴う学校給食食材費の高騰に対し支援を行い、給食水準を維持するとともに保護者負担の増を回避します。

教育支援と教育環境の充実

● 第二小学校等複合施設整備事業及び第五中学校建替事業

第二小学校／高松児童館／曙学童保育所複合施設は令和5年度に、第五中学校は令和5・6年度に整備・建替えにかかる事業者公募及び選定等を行います。

● 第三小学校等複合施設整備事業及び第三中学校建替事業

第三小学校／錦児童館／錦学童保育所複合施設及び第三中学校の整備基本計画を策定します。

● 第七中学校体育館復旧事業

第七中学校の現体育館解体工事や新体育館建設工事を進めるとともに、教育活動等への影響を最小限とするため仮設体育館を整備します。また、体育館の復旧工事期間において、入学式及び卒業式の会場を確保するとともに、学校から会場までの送迎バスによる支援を行います。

● 学校ICTシステム構築

令和7・8年度のタブレットPCと校務支援システムの更新・統合に向け、システムの最適な再構築を行うための整備計

画・調達仕様等を作成します。

● ネットワーク環境の改善

タブレットPCの活用や使用する教材のデータ容量の増加に伴うネットワークの負荷に対応するため、試験的にアクセスポイントなどの機器を更新します。

● 電子黒板の導入

平成21年度に導入した大型テレビを電子黒板に更新し、教育ICTの環境整備を進めます。

● 寄附金を活用した学校備品の充実

令和4年度に事業者から申し出があった指定寄附金を活用して、体育・スポーツ活動に必要な学校備品を購入します。

● 学校法律相談等業務

いじめや不登校、学校での事故・トラブル等に対し、法律の専門家（スクールロイヤー）による法的視点に基づいた相談体制を構築することで、問題の適切かつ早期の解決及び学校経営の充実につなげます。

● 小学校水泳指導業務等

民間等屋内プール施設を活用した小学校水泳授業を試行的に実施し、効果を検証します。令和5年度は、第二小学校と大山小学校において実施します。

● 働き方改革事業

副校長補佐やスクール・サポート・スタッフ、中学校部活動指導員等を配置するほか、休日の中学校部活動の地域移行に関する検討を進めます。

学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

● 通学路上防犯カメラの更新

機器更新時期となる通学路上

の防犯カメラを令和5・7年度にかけて順次更新します。5年度は平成27年度に設置した20台の防犯カメラを更新します。



● 地域学校連携事業

小・中学校全校に設置した学校運営協議会において、より良い学校づくりについて協議を行います。また、地域と学校が協働して、小学校認知症サポーター養成講座など、立川市民科の取組を推進します。

生涯学習社会の実現

● 平和・人権学習事業

平和学習の一環で、中学生を被爆地である広島に派遣し、原爆ドームや平和関連施設を見学、被爆された方の講話を聴くなどの体験を通して、戦争や平和について考えます。今年度は1泊2日の行程を2泊3日に延長し、内容を見直した上で実施します。また、令和6年1月開催予定の立川教育フォーラムで生徒が発表します。



● 地域学習館・学習等供用施設管理運営

施設の経年劣化に対応するため、必要な修繕等を実施します。前期施設整備計画に基づき、令和5年度は西砂学習館及び滝ノ上会館の中規模改修工事を行います。

● 第7次生涯学習推進計画策定

事業

令和7年度から11年度までの5年間を計画期間とする第7次生涯学習推進計画策定に向けて令和5年度に市民アンケートを実施します。このアンケート結果を踏まえ、令和6年度に生涯学習推進審議会での議論を経て、今後の生涯学習の方向性や具体的施策を計画で示します。

● Wi-Fi環境整備

学習活動支援を充実するとともに、災害時の帰宅困難者一時滞在施設や避難所における情報取得に役立てるため、滝ノ上会館、柴崎会館、中央図書館にWi-Fi環境を整備します。

● 寄附金を活用した児童用書籍の充実

令和4年度に個人から申し出があった指定寄附金を10年計画で活用し、図書と電子書籍の充実を図り、子どもの読書活動の推進につなげます。

● 砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業

令和5・6年度で砂川学習館の解体及び砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設の新築工事を行います。

文化芸術の振興

● 歴史・民俗普及活動事業

所蔵資料の適切な保存と一般市民への利活用を促進します。写真及び映像フィルムを保存するための調湿庫を購入し、原資料の保存環境を整えるとともに、デジタル複製した画像等の資料を表示するための大型モニターを購入し、来館者向けの展示を充実させます。

教育委員の活動を紹介します

令和5年1月から4月までの教育委員の活動は下表の通りです。

活動実績(令和5年1月~4月)

1月13日(金)	第1回教育委員会定例会 第3回総合教育会議
1月18日(水)	研究発表会(二中)
1月26日(木)	学校訪問(八小) 第2回教育委員会定例会
2月1日(水)	学校訪問(八中)
2月5日(日)	立川教育フォーラム
2月9日(木)	第3回教育委員会定例会
2月24日(金)	第4回教育委員会定例会
2月28日(火)	東京都市町村教育委員会連合会 研修会
3月13日(月)	第5回教育委員会定例会
3月23日(木)	第6回教育委員会定例会
4月13日(木)	第7回教育委員会定例会
4月27日(木)	第8回教育委員会定例会



八小への学校訪問の様子



八中への学校訪問の様子

☎教育総務課庶務係・内線2465

中央図書館が「優秀実践図書館」として 文部科学大臣表彰を受賞しました



中央図書館が表彰された主な理由として、「たちかわ電子図書館」の普及促進に向けた積極的な利活用があります。令和3年9月に市立小・中学校の児童・生徒全員に「学校用たちかわ電子図書館利用カード」を配布したことにより、読書を習慣化する児童・生徒が増え、特に小学生は貸出数、閲覧数とも顕著な伸びを示しています。その後も児童書読み放題書籍300冊(現在は632冊)の導入や、電子書籍の寄附をいただいた民間事業者との連携を図りながら、読

書に親しむ子どもの育成に努め、読書を身近なものとして習慣づけることに力を入れていることや、事業の定着化が図られていることが評価されました。

子どもたちがより本に親しむきっかけとなるよう、また、読書習慣の継続に寄与できるよう、図書館はこれからも紙書籍と電子書籍を両立させた子ども読書活動の推進に取り組んでいきます。

☎中央図書館 ☎(528)6800



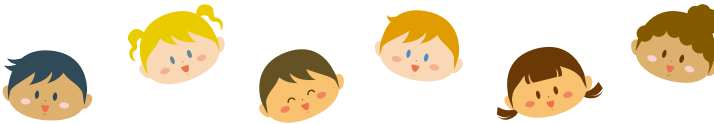
大山小での読書活動の様子

表彰状の授与を受ける栗原教育長

TGGで英語学習をしています

令和5年1月16日(月)にTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) GREEN SPRINGSが、多摩地区として初めて立川駅北口エリアにオープンしました。このTGGは未来のグローバル人材育成の一環として、児童・生徒の英語のコミュニケーション力を高めるために設置された体験型英語学習施設です。オープン後、早速市内の小学校5・6年生およそ1,500人がTGGのプログラムで学習しました。空港内で英語を使ってコミュニケーションを行う体験プログラムや、英語を使って地域に関する事柄や地球の未来等について学ぶプログラムを選ぶことができます。今年度も市内の多くの児童・生徒がTGGを利用し、コミュニケーション力や英語力の向上を図っていきます。

☎指導課・内線2499



学校閉庁日のお知らせ

教員の働き方改革の一環として、夏季休業日期間中、下記の日程で小・中学校全校に「学校閉庁日」を設定します。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、児童・生徒の生命に関すること等、緊急の事態が起きた場合は、立川市役所の代表電話☎(523)2111へご連絡ください。

学校閉庁日

令和5年8月7日(月)から
11日(金)祝までの5日間

☎教育総務課庶務係・内線2465

学校給食費の公会計化を進めています

これまで学校ごとに「私費会計」として学校長が管理していた学校給食費を、市が歳入歳出予算に計上して管理する「公会計」への移行を、次のとおり進めています。

令和5年度1学期から：九小・十小・西砂小・南砂小・幸小・松中小・大山小・柏小・上砂川小・新生小・若葉台小

令和5年度2学期から：一小・二小・三小・四小・五小・六小・七小・八小・一中・二中・三中・四中・五中・六中・七中・八中・九中

公会計化すると…

- ・口座振替できる金融機関が増え、保護者の利便性が向上します。
- ・市の予算に計上することにより、計画的かつ安定的に学校給食を提供します。
- ・学校給食費の徴収管理、食材料の調達を市に集約することで、事務の効率化につながります。
- ・学校給食費の徴収管理を市が行うことで、教職員の業務負担の軽減につながります。



☎学校給食課管理係・内線6812

砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業を進めます

令和7年度の供用開始に向けて、複合施設の整備を進めており、令和5年7月から砂川学習館の解体工事と砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設の新築工事を行います。このため砂川学習館(子育てひろばを含む)は令和5年4月から令和7年3月まで休館となります。休館に伴う仮事務所の場所等は、市ホームページ等で今後お知らせします。

新たな複合施設は、砂川学習館で担っていた生涯学習機能・子育て支援機能に、集会・交流といった地域コミュニティ機能を合わせ、多世代交流によるにぎわいの拠点となる場を提供します。

砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設の完成イメージパース



☎砂川学習館係 ☎(535) 5959

立川市の
歴史と
文化財

51

関東大震災と立川飛行場



写真1：震災当日の都心から立ち上る煙

令和5(2023)年は関東大震災から100年となる節目の年です。関東大震災は大正12(1923)年9月1日に起きたマグニチュード7.9と推定される大地震で、東京府(現在は都)では震度6を観測しました。都心では建物崩壊のほか、地震発生時刻(11時58分)が昼食の時間と重なったことで広範囲におよぶ延焼火災が発生し、甚大な被害をもたらしました。関東大震災の前年大正11(1922)年に完成した広大な立川飛行場からは、都心から立ち上る火災の煙が見えました(写真1)。当時砂川尋常高等小学校(現在の第八小学校)に通学していた中野藤吾氏は始業式を終えて帰宅したのち震災に見舞われ、「午後二時頃南東に当りて蒙々たる白雲否白煙立ち上り。〔夜になり〕昼見し煙の方を眺むれば東天は焦げんばかりに赤く、わが住む所、東京を距る約八里(約32km)、而かも火の光に

照されて、微かに我が影を認むるに至る」(「大震災の記」大正12年、立川市蔵)と記録しています。

また、第九小学校百年誌『あしっこ』(昭和55年)でも震災を振り返り、「まわりの家々は(中略)いまにもつづれそうにふらふら左右に物凄くゆれ、家々の壁がばらばら落ち、土蔵の壁もひびわれて、ばたばたと大きな音を立てて落ち、土けむりがもうもうと立ち、暗い感じがするほどでした」と記されています。強い余震も非常に多く、どの家の住人も家から竹藪に避難し、数日は竹藪で野宿したといえます。現在の柴崎町にある玄武山普濟寺の国宝・六面石幢が横倒しになるなどの被害もありました。しかし、立川市域では幸いにも家屋倒壊などの大きな被害はなく、土蔵や物置の全半壊や破損に留まったようです。

立川飛行場も被害はそれほどなかったため、壊滅状態で交通・通信手段を絶たれた大都市圏の飛行場に代わって、大震災の情報・救援物資の要請などを各地へ伝える拠点となりました。その後、被害をうけた都心の飛行場から民間の航空会社や飛行学校が立川飛行場へ移転してくると、海外からの来訪飛行もたびたびありました。航空機による郵便・貨物・旅客輸送事業も発展し、空の都立川の名が世界的にも広まりました。昭和3(1928)年に政府支援を受けて設立した日本航空輸送株式

会社もその一翼を担った一社で、立川飛行場の南西地区に東京での拠点を設け、昭和4年から営業を開始しました。翌年には、より郵便の利便性を高める目的で、立川飛行場内に航空郵便ポストが設けられます(写真2)。郵送にかかる時間は立川から大阪まで2時間30分程度と、それまでの陸路便(汽車で10時間以上)と比べれば雲泥の差でした。日本航空輸送株式会社が発行した昭和6年の航空郵便案内(写真3)によれば、運賃は15gまでの有封書状で汽車の6倍、18銭かかりました。また、航空郵便のポストが「空色」だったことなども記されています。遺されている写真資料はモノクロのため判断できませんが、立川にあったポストも「空色」だったのでしょうか。これらの民間の航空会社や飛行学校は、昭和6年の羽田飛行場完成とともに徐々に移転しますが、立川飛行場の名は皮肉なことに、関東大震災を経たことで世界へ広く知れ渡ることとなったのかもしれない。

さて、歴史民俗資料館では、6月13日(火)から7月9日(日)まで、企画展「新収蔵品展」を開催します。本稿でご紹介した日本航空輸送株式会社の航空郵便パンフレットのほか、令和4年度に市民の方々から寄贈していただいた資料を展示します。ぜひ会場までお越しください。

◎歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係) ☎(525) 0860

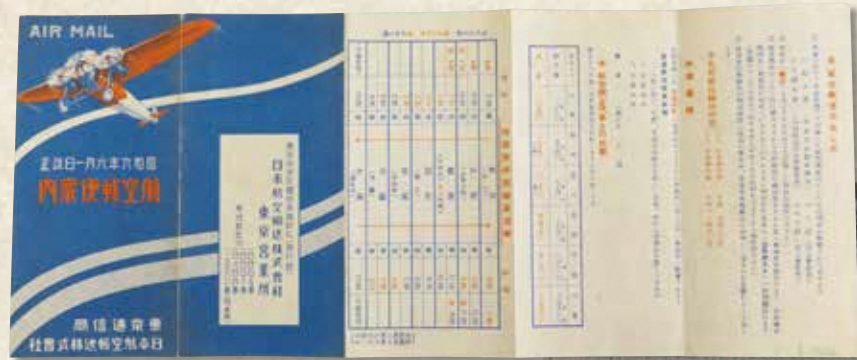


写真3：立川飛行場の航空郵便案内パンフレット



写真2：立川飛行場の航空郵便ポスト